

氏名	大 山 正 史		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2508 号		
学位授与の日付	平成 4 年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	DNA-DPBタイピングと死体腎移植		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 中山 睿一	教授 大森 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

HLAクラスII抗原のうちDP抗原の移植臨床における重要性を検討する目的で、HLA-DNAタイピング法(PCR-RELP法, PCR-SSO法)を用いて、26例の死体腎移植症例を対象として、DNA-DPBタイピングを行った。末梢血、脾臓のみならず毛髪や極微量(100 μ l)の血液からもHLA-DNAタイピングが可能で、種々の学問領域における応用が期待された。DNA-DPBミスマッチと移植腎予後については、統計学的有意差は認められなかったが、0または1ミスマッチ群に比べ、2ミスマッチ群のほうが、統計学的有意差をもって予後不良であった。

遺伝子工学の進歩に伴い、ヒト主要組織適合抗原であるHLA抗原分子の多型性を遺伝子レベルで解析可能となった現在、より正確・詳細なタイピングによる組織適合性の検討と移植成績の向上および骨髄バンクをはじめ、より迅速かつ有用なドナー選択システムの確立など数多くの課題が残されているように思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、HLAクラスII抗原のうちDP抗原の移植臨床における重要性を検討する目的でHLA-DNAタイピング法を行い、26症例の死体腎移植症例を対象として、DNA-DPBタイピングを行い検討した。その結果、DNA-DPBミスマッチと移植腎の予後について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。